

令和3年度第2回天草市総合教育会議 会議録

1 期 日 令和3年11月15日（月）午後2時00分開会

2 場 所 天草市役所本庁 庁議室

3 出席した委員等

市 長	馬 場 昭 治	教 育 長	石 井 二三男
委 員	木 下 えり子	委 員	行 合 八恵子
委 員	吉 森 啓 司	委 員	岩 崎 あゆみ
委 員	池 崎 教 授		

4 欠席した委員等

な し

5 出席した職員

教 育 部 長	長 元 忠	教育総務課長	本 多 俊 隆
学校教育課長	赤 星 潤 一	生涯学習課長	岡 田 恵
学校給食課長	堀 口 広 正	学校教育課審議員	酒 井 成 寿
学校教育課課長補佐	口 脇 大 作	学校教育課教務2係長	宮 口 恵 美
生涯学習推進係長	児 玉 洋 子	生涯学習課公民館係長	坂 本 真理子
学校教育課参事	松 下 美 紀	学校教育課参事	今 福 恭仁彦
学校教育課主査	濱 厚 子	教育総務課施設係長	正 村 謙 一
教育総務課課長補佐	谷 口 哲 也		

6 議題

- (1) 児童生徒の情報活用能力の育成について
- (2) 体験ができる学びの場の創造について
- (3) 天草初の大学設立に向けた取組について
- (4) 公立幼稚園のあり方について

7 報告事項

- (1) 不登校・いじめ問題等の状況について
- (2) (新) 本渡学校給食センター建設の進捗について

8 会議の概要

(1) 開会

開会にあたり、事務局より、会議出席者の紹介及び傍聴者の報告を行った。

(2) 市長あいさつ

馬場市長より、会議開催にあたり、前回会議の御礼や教育行政との方向性共有の大切さなどが述べられ、積極的な意見交換が依頼された。

(3) 会議の概要

① 児童生徒の情報活用能力の育成について

(学校教育課から、資料に基づきICT環境整備状況等について説明)

- 馬場市長：先に河浦小中学校で実際のICT活用例を視察した。実際に活用する中で課題を見つけ解決する姿から、通信環境整備の重要性のほか今後の可能性の広がりを感じた。
- 木下委員：市長就任以降の活躍に敬意を表したい。児童生徒全員へのタブレット配備やICT支援員の配置など学びの保障につながる取組に感謝したい。学校現場でもICTを活用した授業が広がりを見せている。次第に慣れることで普段の活動にも利用でき、さらに子供の意欲を引き出すよう有効活用を願いたい。
- 吉森委員：国もICT整備に向けた予算化の意向を示している。教師側も事務負担軽減だけでなく、授業への活用のために使いこなしていくべき。現場教師の意見を取り入れた事業展開を願いたい。報道のあるUSB紛失等の個人情報保護対策には留意願いたい。
- 学校教育課長：個人情報保護や他校の活用事例について、ICT支援員や教員代表の部会会議で情報共有を図り、全体が同じ方向性を持って取組めるよう協議を進めている。
- 岩崎委員：授業参観などで保護者にタブレットを使っている姿を見る機会を設けてほしい。タブレットの持ち帰りに係る家庭側の周知も必要と感じる。家庭でタブレットが利用できる学習環境は恵まれていることを確認し、家庭側でも試行錯誤しながらより良い展開に向かいたい。
- 教育部長：タブレット等の持ち帰りが始まった段階であり、パスワード設定や持ち帰り時の置き忘れ、運搬方法などの課題・解決策が出てきている。良い事例は各校で情報を共有し改善に努めている。
- 木下委員：持ち帰りは、オンライン授業に備えた試行でもあるが、授業中での活用が重要。
- 石井教育長：まずは授業での活用を考え、持ち帰りは緊急時の備えと考える。全教職員がタブレット活用には意欲的に取組んでいる。市長が言うように、教師が生徒から学ぶことも課題解決方法の一つであり、まずは授業での活用を図りたい。
- 池崎委員：ICTの活用方法は多様であり、生徒の健康管理に使用する事例も聞く。反面、持ち帰り時の学習以外の利用が危惧される。図書の紹介や不登校生徒への対応まで含めて多面的に活用策を研究して欲しい。
- 馬場市長：セキュリティ対策やフィルタリングの設定について、現状の取扱いはどうなっているか。
- 今福参事：現在は、フィルタリング設定によりダウンロードやホームページアクセスに制限をかけている。話題となっているなりすまし利用も、個別パスワード設定で12月中には対応できる。チャット利用による生徒間利用も制限しているが、授業中はチャットを活用している。情報モラル教育と同時進行での運用拡大が必要と考えている。
- 馬場市長：将来的には、ICT活用は広がると思われる。先生と生徒のコミュニケーションツールとしての活用も期待できる。まだ初期段階ではあるが、課題は解決しながら前向きに取り組みたいので、協力願いたい。

② 体験ができる学びの場の創造について

(生涯学習課から、資料に基づき地域の人づくり講座の状況等について説明)

(馬場市長から、資料に基づき同講座における体験留学の講演内容について説明)

馬場市長： 以上概要説明したが、天草の歴史や精神的な寛容性、人材の多様性などを生かし、天草の先人たちが行ってきたことをメニュー化することでもある。意見を伺いたい。

木下委員： 市長の言う体験学習は生きる力の育みであると感じた。倉岳登山参加の際に、北小学校と倉岳小学校の見知らぬ児童が、登山を通して仲良くなり、最後は200人の集団をリードしていた。子供たちにとっては、登山という体験を通して、楽しく、充実した経験から学びを得たと考えた。学校での体験、ボランティア体験なども成長につながる。

池崎委員： 子供たちと大島でキャンプをした経験がある。安全配慮には苦労したが、飯ごう炊飯の体験など楽しく実施できた。子供には、体験だけでなく、日常の生活がいかに恵まれているかを感じてほしいと思った。そこに成長と喜びがあると感じている。

馬場市長： いろいろな自然環境と優れた指導者に囲まれ、体験学習の面では、天草の子供たちは恵まれていると考えている。

石井教育長： いかにして天草の子供たちの体験を増やし、同時に天草外には子供たちの体験を通じた呼び込みを行うかであろう。

行合委員： 過保護や過干渉で子供たちの自己肯定感が薄れてきていると感じる。子育て支援の現場では、子供が自信を得ることができる言葉を選んで接することで参加児童も増えてきたと考える。体験することで学び成長することは、現場を通して実感している。市長の施策にも課題はあろうが、子供にとってはプラス面しかないので実現を期待する。

馬場市長： 課題の一つに参加方法がある。自由参加では、来れる子供だけが何度も来る結果となる。全員が参加できる形態が必要と考えており、教育現場とも協議したい。

行合委員： 子どもに対しては楽しさを与えないと継続はない。子供たちが自分から参加し、次は自分たちが指導できるような環境づくりを第一段階とすると良いのではないか。

吉森委員： 中学生に魚釣りが得意な子供がいる。得意なことを重ねるうちに、最近では、魚をさばくことができるようになった。子供は得意なことができると生き生きと輝き出す。その環境を提供する方法を考える必要がある。

行合委員： 少子化で子供会活動がなくなっている。上下間の協力関係も同時になくなったので、一定の集団化が必要と考えており、行政の支援を願いたい。

馬場市長： そういう面では、PTA団体にも話をし一緒に取組んでいきたい。
ほかに意見がなければ、暫時休憩する。

③ 天草初の大学設立に向けた取組について

馬場市長： それでは、会議を再開する。

本件は、市長就任直後から取組をはじめ、庁内プロジェクトチームを5人で編制し定期的に協議をしている。12月には協議の中間発表を行うが、現状は情報収集と大学の必要性を含めた論議の段階であり、具体的な形の報告はできないが、率直な意見を伺いたい。基本的な考えとして、大きなキャンパスを作ったり、他の大学を誘致するという考えはない。少子化で大学経営も厳しいことは分かっている中で、大学のあり方、コロナ禍でのオンライン授業、地方・大人の学びの場の必要性なども含め検討をしている。

吉森委員： 天草の大学についてイメージが湧かなかったが、キャンパスなどに固執しないとの説明を聞いて理解できた。50代の大学生という考えをもっていけば、やり方次第であると感じた。身近に、コロナ禍で大学を中退した学生もおり、可能性はあると考える。

馬場市長： 大きなキャンパスや校舎のある大学設立は不可能に近い。天草に設立するのにオンラインだけの大学では魅力に欠け、人間形成と人脈構築につながらない。天草市に京都芸術大学の生徒がやってきて各地域を回っているが、これらの取組を発展させたいと考えている。市に協力いただいている武蔵野美術大学の若杉先生のゼミ生も天草で学び、地域活性化に取り組んでほしい。最近は、地域活性化にチャレンジする大学は多い。その学生と地元の子供たちが一緒に学び、実際に体験し、研究する場所として天草は最適であり、この活動と大学卒業単位の互換などの可能性を探りたい。

吉森委員： 天草という地域性を見れば、海洋学研究には適する。いろいろな意見を吸い上げてほしい。

行合委員： 御所浦の勇志国際高校は人気があり、ここにスクーリングに来島した生徒も活用できる。自分の経験からしても、都会にスクーリングに行くことは大変であり、天草に大学があればうれしい。市民の中にも勉強欲のある人は多い。学びの場を期待する人は一定数いると思う。

木下委員： コロナ禍で大学のオンライン化が進んだ。天草にしながら大学卒業資格が取れればよいことだし、天草も活性化する。実際には、対面での授業を期待するし、サークル活動なども期待したい。夜間中学の例のように、社会人が学び直せる場があれば、市民にとっても大きなチャンスである。

④ 公立幼稚園のあり方について

(教育総務課から、資料により公立幼稚園の現状と課題等について説明)

馬場市長： あらためて少子化を実感する。近年、幼児教育の重要性は高まっており、皆さんの意見を伺いたい。

木下委員： あらかじめ幼稚園教育に係る思いを述べる。市立幼稚園3園では預かり保育も実施したが、これまでも体力づくりに始まり、人との関わりなど一人一人への丁寧な対応が続けられてきた。確かに園児数の減少はあるが、幼稚園教育を望む保護者も一定数

いる。預かり保育の現状も不定期的な部分があり、保護者からは定期的な実施と時間延長を望む声がある。感じるのは、幼稚園教育のすばらしさのアピール不足である。年間33回の研修が行われており、特色ある幼稚園経営が可能と考える。職員数に課題があるのなら3園を2園に減らし、その中で充実した英語教育等を行うことも考えられる。市では、英語教育の充実に取組んでおり、これをもっと活発にする取組を検討しても良い。特別な支援を要する子供に視点を置いて幼稚園教育を推進することも可能と考える。

馬場市長： 保育所との連携について、幼稚園としての課題等があれば説明願う。

教育総務課長： 幼保連携については、認定こども園の話が市内2カ所からあっている。民間から話があっているのは、幼稚園と保育所を一つの施設内に設置する取組である。

行合委員： 幼児教育は教育の原点と考える。これまで何人もの優れた園長が引き継ぎ、先生たちも実践に努めてきた。少子化やコロナ禍を踏まえて、民営化の考えもあるだろうが、市としての方向性はどうか。木下委員の言う幼稚園での英語教育への特色も一つの方法であり、良い取組だと感じた。

教育部長： 幼稚園を民営化する考えはない。民営化しないので、今後どうするかが課題として生じる。少子化への対応は必要であり、今の幼稚園の特色は、要支援児への配慮、保育所に断られた児童の受け皿機能、幼保連携や保健所との連携など多岐にわたると考える。

行合委員： 幼稚園教育では、集団における学びが重要であり、園児数の減少によって効果的な集団での教育が不可能であれば対応が必要である。

岩崎委員： 保育園を利用してきた保護者としては、幼稚園における先生と園児の関わり方を見て非常に魅力的に感じた。働く親にとって今の預かり保育は良い取組であるが、取組のことを知らない保護者も多い。家との距離で保育園を選ぶことが多いが、その時点で、もっと幼稚園教育の魅力を示せば、保護者の選択肢には十分入る。幼稚園教員の確保による幼児教育の充実を希望するし、長期休暇中の預かり保育充実も望みたい。まずは、保護者の選択肢に入るように幼稚園の良さを周知すべきだ。

行合委員： 預かり保育スタートで条件が近づいたので、これからは幼稚園と保育園の教育内容の違いが顕著になる。教員確保も重要な課題であり、慎重に検討していくべき。

教育部長： 預かり保育のスタートと保育料無償化によって、保護者負担は平準化された。国の幼保一元化の国のねらいは待機児童解消のための受け皿増加としての子育て環境整備であった。天草市は状況が異なり、待機児童がいない中での少子化である。保育園と幼稚園が持つ特色の違いが薄れてきた。指導要領での両者の差もなくなってきた。この状況の中で、次の段階に進むための検討が必要。違いが明確であった幼稚園と保育園が、同じように選択肢の一つとなっていており、その中で少子化という課題に対応していく必要がある。

馬場市長： どのような結論であっても、入園中の子供たちや保護者には直接影響が出てこない

ようにする必要がある。皆さんの知恵を借りながら慎重に検討していきたい。

(4) 報告事項

① 不登校・いじめ問題等の状況について

(学校教育課から、資料により市内不登校及びいじめの状況等について報告)

② (新) 本渡学校給食センター建設の進捗について

(学校給食課から、資料により本渡学校給食センター建設の現況等について報告)

(5) 閉会

市長の宣告により閉会する。